

世界へ届け

核兵器廃絶への思い

1945年8月9日、一発の原子爆弾が長崎のまちを焼け野原にかえしました。

あの日から77年を迎えた今年、平和公園で行われた平和祈念式典に1600人のかたが参加し、屋内会場の原爆資料館ホールと出島メッセ長崎にもあわせて530人のかたが訪れました。

田上市長は長崎平和宣言で、ウクライナ侵攻の中、核兵器使用のリスクが高まっている今、このリスクから人類を守るためには「核兵器廃絶しかない」との強い思いを訴えました。また、世界の皆さんへ向けて、「戦争はダメだ」と声を上げることの大切さと呼び掛け、「長崎を最後の被爆地に」という思いのもと、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に力を尽くし続けることを宣言しました。

さらに、被爆者代表の宮田隆さんは平和への誓いで、「核兵器のない世界実現への願い」を引き継いでいくことを誓いました。



1. 原爆死没者名奉安／2. 被爆者代表の宮田隆さんによる「平和への誓い」／3. 山里小学校児童の「あの子」の合唱／4. ピースボランティアによる水とおしぼりの配布／5. 世界で唯一の被爆者合唱団「ひまわり」による「もう二度と」の合唱



長崎平和宣言（骨子）

- 被爆者（渡辺千恵子氏）のエピソードを通じた、「核兵器を使っ
てはならない」という強い訴え
- ウクライナ侵攻を発端に、核兵器使用のリスクが顕在化したこ
とによる危機感の共有
- 核抑止力に依存する考えへの警告と、「核兵器をなくすしかない」
という認識喚起の訴え
- 核保有国に対し、会期中の核不拡散条約（NPT）再検討会議
で核軍縮への具体的プロセスを示すよう要請
- 日本政府と国会議員に対し、平時からの平和外交を展開するリー
ダシップの発揮、「北東アジア非核兵器地帯」構想の議論の先導
及び核兵器禁止条約への署名・批准の要請
- 市民社会から声を上げることの重要性の訴えと、暴力で解決し
ようとする“戦争の文化”はなく、話し合いで解決しようとす
る“平和の文化”を根づかせることへの呼びかけ
- 日本政府に対し、被爆者援護の充実と被爆体験者救済の要請
- 原爆犠牲者への追悼と、世界の人々との連帯により核兵器廃絶・
恒久平和実現に向け力を尽くすことへの決意表明

全文はコチラ



原爆犠牲者之石